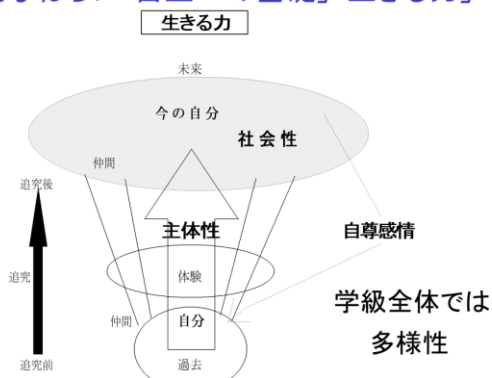




テーマ「単元構想 ～小2生活科 ふなのりシンドバッド～」

1 はじめに ー私の考え方ー

究極的なねらい「自立への基礎」「生きる力」



方向目標：「到達目標」ではない

「生きる力」の
中核を占める「主体性」

- ・主体性＝「問題解決」そのもの！
願う姿：子どもが自分で目標を
つくって、実現していく姿
……一生は、これの繰り返し

2 「単元」という学習の枠組みを持ち込む

「単元」という用語が、初めて用いられたのは昭和27年発行の小学校学習指導要領理科編（試案）においてであった。そこでは「単元」を次のように定義している。

【「単元」の定義】

- ・・・自分の意志によって行動しようとする人々にとっては、日常生活の大部分が問題解決の過程の連続であるともいえる。
- ・・・この問題を自分で解決する過程を、学習の中に持ちこんで、これを全体の学習中の一つの大きな仕事にしようとするのである。この仕事は、一つのまとまりのあるものであって、これを単元と名づける。

昭和27年小学校学習指導要領
理科（試案）

単元：問題を自分で解決する過程を、学習の中にもち込んで、これを全体の学習中の一つの大きな仕事にしようとしたもの

単元の学習：一つの問題をつかんで、それを解決するまでの研究の過程

子どもの立場からとらえる

3 単元づくり（計画ではない構想）

問題解決活動と教師の位置

教育：意図的・計画的・継続的な教育活動

《教師の計画によるもの》

第一次、第二次・・・

教科に多い（目標＋内容）

〇次ごとに子供に見通しをもたせる

《教師の構想によるもの》

課題は示すが、あとは子供にゆだねる

教科以外に多い（ゆるい）

全体の見通しを子供にもたせる

単元構想を一言で言うと・・・

- ・教師との約束の中で、一人一人がそれぞれの意思・判断による主体的な活動（問題解決）をしていっても、どの子にも学びがあるようにするための、
教師の説明責任

きちんと単元構想をしておき、
びくびくせず、子どもの動きを
見取ることを楽しもう！

単元の導入時が全て

★ 子供が、やりたくなる要素があるか

【意欲】

★ 子供が、わくわくし「頑張ればできそうだな」と思えるか

【見通し】

主体的な
問題解決へ

4 2年生活科「ふなのリシンドバッド」 の実践を手がかりに：教科書がないときの実践



(1) 単元構想

教師の願い

- ・ 他の学校の1年「おもちゃであそぼう」を参観して・・

もっとダイナミックに

楽しめないか・・・

おもちゃは楽しいぞ・・・

可能性は、車より船だ！

私の授業実践課題

- ・ 主体性の育ち・・・一人ずつ活動の場を確保
 - ・ 社会性の育ち・・・グループ活動
- しかし、埋もれてしまう子どもが・・・？

何とか、両方に柔軟に対応できないか

《単元を通しての約束》 11月から3月まで悩んだ末
どんなグループでもよいし、途中でグループを
かわってもかまわない。しかし、
「グループ全員が乗れるふねを作ること」

(2) 活動計画

5～6月のプールを使う！

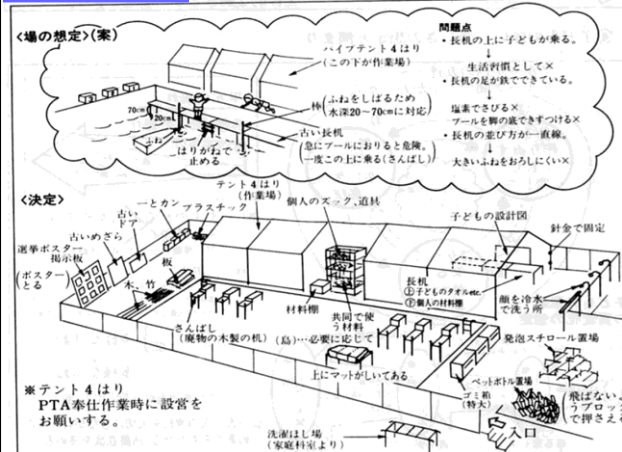
①一人追究の場の設定（案）—— 二つの比較

案	一人追究における 長所・短所	シンドバッド大会の (全体で試す場)動き	その他
I 案	水深20cm ◎何度も水に浮かべ、試 しながら一人追究でき る(直接試す)。 △季節がら、足が冷える。 ○おぼれにくい。	△水深を深くしても感 動は小さい。 ◎安全性◎ ○大部分の船が、うまく 浮かぶ。	△一時(材との出会い)で 満水なのに、一人追究 で急に浅くなるのは不 自然。
II 案	水深70cm ◎直接試せない(危険)こ とから、何とかして間 接的に試そうとする。 (昔の中には必ずしも流行 しなかった)。 ○季節がらを生かし、安 全意識も高める。	◎はじめて浮かべる時 の不安・期待・感動◎ ×安全性◎ ◎はじめはうまく浮か ばないふねも多い。	○一時(材との出会い)の プールを、そのままの 状態で一人追究に生か せる。

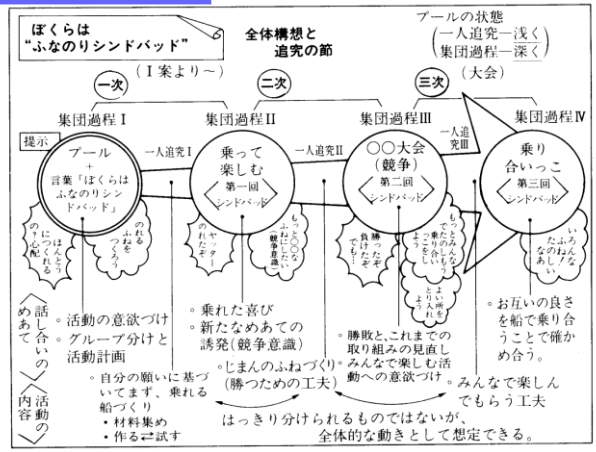
※何より 安全性 優先 → I 案に決定!!

安全性 優先

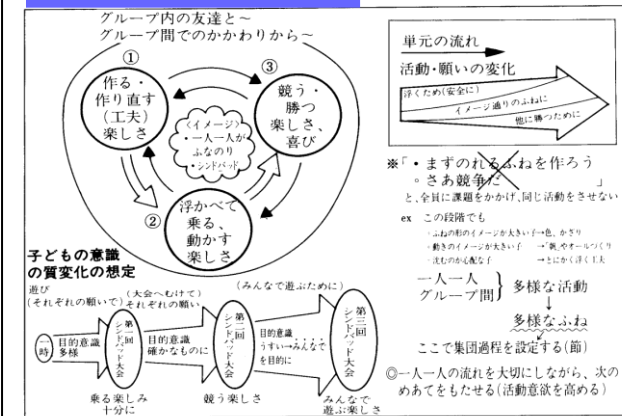
②活動の場の想定



③全体構想と追究の節



④子どもの願い、楽しみの想定と深まり



⑤事前の指導、準備

- ①「シンドバッド」を知らない子もいる
↓
道徳 VTR教材「シンドバッド7つの冒険」
- ② 保護者へ説明
・ 廃材のお話し(大量)
・ 着がえ
・ ぬらしてもよいスック } 準備
・ 内容
- ③ 場の設定
・ プール+シート、模擬実験
・ 材料置場、用具置場
・ 第一総合学習室の環境
・ スック置場、ぬれた服はし場
- ④ 大量の廃材や準備物(別紙)
・ くぎぬき
・ ポスター板(くぎとり・ポスターはがし)
- ⑤ リハーサル
・ 作る→乗る
・ さんばし
- ⑥ 「みんななかよし」でのグループの変化の表

⑥事中の指導

- ・ ぬれたスック、着がえの始末のしつけ
タオル
 - ・ プールサイドの並び方
話の仕方
 - ・ 用具・材料の始末の仕方
使い方
- 毎日の学習
学校生活全体の中で
子どもを育てる一つとして
・ 全教育活動中での
友達のよさみつけ
・ がんばる一人をみんなで
応援する機会の設定
・ イベントの子もだけの
運営の機会の設定
何より話し合い・活動の仕方
の体制づくり

⑧ 教材の利用、準備物

2年生→ふねの骨組みとなるものが必要
(細かいもので、子どもだけの力では、障害が大きすぎる)
(教師は教えても、絶対、子どものかわりに作らない！)

材	家	店	学校	備考
板、木、竹	○	○	○	・家のたてかまど時、近所でも可
ダンボール	○	○	○	
牛乳パック	○	○	○	※各クラスへの呼びかけ(子ども)
ペットボトル(1.5ℓ)	○	○	○	※各クラスへの呼びかけ(子ども)
ナイロン袋、ゴミ袋	○	○	○	
タイヤチューブ	○	○	○	
ドラムカン、一とカン	○	○	○	
アキカン	○	○	○	アキビン(ガラス) 危険→使わず
エントツ	○	○	○	水が流れる一たん等である必要有
発泡スチロール	○	○	○	リング用の大きな箱が特に便利
めざら	○	○	○	
選挙ポスター掲示板	○	○	○	教師が教室環境まで第二に必要有 (上は3/4まで、下は1/4まで)
ドア、不用ペニヤ板	○	○	○	
布	○	○	○	旗など
紙(はうそう紙など)	○	○	○	
マジック	○	○	○	教室の消耗品を利用
ペンキ	○	○	○	必要があれば教師が購入する

・つなぐために
・ガムテープ、布テープ
・セロテープ、オリエンテープ
・くぎ(各種)
・なな目のタフローブ
・はりかね

・用具
・のこぎり
・ペンチ
・はさみ
・くぎぬき
・ハンマー ほか

⑨ 骨組みとなる廃材

①学校にある古くて使われていないめざら 15枚
②学校にある廃きされたドア 4枚 (家庭にもあるかも…)
③市議会選挙で用いられたポスター掲示板 3ヶ所分…9枚
④タルキも使用可
⑤市選管へ連絡し、もらう。
・教師の手で不用なきをぬく
・ワクのくぎ(大)がゆるい場合、しっかりうっておく。

⑧ 教師が意図する集団過程を意味あるものにするために

○子どもにとっては「遊び」。→教師にとっては「意図的」。

必要に応じて、しるしのたしかめを取り上げる
(事実を全員に知ってもらう)

子ども自身 目に入るように工夫する

- ①子どもの内面を探る
 - ①ノートによる毎日の記録
 - ②ハプニング-VTR & Photo
 - ③毎時間の充実度
- ②作る活動の深まりを保障する
みつけた工夫をジャンル別に掲示
「だれ」がみつけたかを確かなものに
- ③自分だけでなく、他を意識させる
 - ①グループの変化の表
 - ②グループや個人の願いの表
- ④一時(材との出会い)のイメージ強化のために
道徳VTR教材「シンドバッド7つの冒険」
・道徳として扱いながら……

・シンドバッドの人物像、イメージを豊かにする
・「ふなのり」の意味を全員が把握できる
・いろいろなふねが出てくるので、ふねのイメージを強化できる

⑨ 安全性確保のため

- ・作業
 - ・必ず軍手(子ども用のびる手袋)をつける
(一人一組、学校でまとめて購入)
 - ・水に入って試す時もズックをはく
絶対にだしにならない
 - ・くぎの打ち方、のこぎりの使い方等、用具の使い方の指導の徹底
- ・シンドバッド大会(水深70cm)
 - ・ズックは、はいたまま
 - ・心配な子は首にヘルパーをつける
 - ・ふねに乗る前に必ず冷水で顔を洗う
(心臓マヒの予防)
- ・カゼの予防
 - ・ぬれてもいい(プール用)ズックを準備する。
 - ・毎日、タオル、着がえをもって来る。
 - ・教室にはストーブ(ブルーヒーター)を準備しておく。
 - ・天候を考慮、時間割を入れかえながら活動を行う。

⑩ 整頓、後始末徹底のため

- ・用具、材料置場の整頓
- ・ぬれたズックを入れる棚の準備
- ・軍手はし場(ロープ+せんたくばさみ)
- ・ぬれた衣服はし場(ロープ+ハンガー)
※下着は、よくしぼって、スーパースの袋へ入れ、家へ持ち帰る
- ・作業場(テント下)の場所割

ここまでを単元展開の前に描く

- ・学習内容が教師(学校)に任されている!!

↓

学校長の許可が必要

綿密な単元構想(管理面・指導面)の必要性

指導(ねらいとしかけ) と 管理(命とお金)

2つの窓から考えておく

(2) 実際の展開

① 導入での教材提示

「楽しそう!でも、プールに落ちたら(難題に挑む決意を確かにする教材提示)」

※4月に3時間、ビデオ教材「シンドバッドの冒険」を用いて道徳の学習を行っている。

〔5月8日、プールサイド(水深)70cmにて〕

T:教師,C:子供,C0:子供のつぶやき

T1:『ふなのりシンドバッド(板書)』

みんなが乗れる船を作って、遊ぶんだよ。

C0:イエーイ! ラッキー! 楽しそう!

C1:でも、プールに落ちたらどうするの?

(「壊れたら、死ぬかも」と5.6人が続く)

C2:じゃあ、始めに先生が乗ればいいよ。

C3:重いと沈むから軽い物で船を作ったら。

T2:もう、C3は沈まない方法を考えているんだ。

C4:やっぱり一番に乗るのは先生だ。

大丈夫だったら みんな乗ればいい!!!

(「まず先生で〜」と 12人が続く。)

T3:残念ながら、先生は乗ったり手伝ったりしません

(C0:エーッ!..不安の声)

T4:みんなでやるんだよ。(静まり返る)

T5:やるかい?

C5:よーし、やるぞ。

C0:やろう! やろう!

なぜ教師は踏みとどまれたか？

- 教師の目的意識：

この単元でどんな子どもを育てたいか？

自分の願いを大切にしながら、仲間と折り合いをつけながら活動をしていき、自分の願いを達成していこうとする子ども(根幹をなす問題解決)

「グループで、..でも、好みが...」 (個性的な取り組みを保障するために)

- C1: グループで作って、順番に乗ればいい。
- C2: 大きい船を作ってみんなで乗りたい。
- C3: 一人ずつ別々に作らないと！好みだって違うし、自分のやりたいことができないよ。
- C0: 時間がかかり過ぎるよ。....
一人で好きなようにしたい。
困ったな...。どうすればいいの！
(騒がしくなる)

T1: 一人だけでもグループでもいいのにしたらどう。途中でグループを変わってもいいよ。

(C0: 賛成)

でも、一つだけ約束があります。〈約束:
グループみんなが乗れる船〉(課題を提示)

C4: 「3人グループなら、3人乗りの船を作る」ってこと？

T2: そう。一人一人がみんなシンドバッドだよ。

C0: わかった。いいよ！早くやろう。楽しみだ。

「単元名」の重要性

- 単元を通しての教師と子どもの間の約束の象徴
単元を通して一貫している自由度と約束
- 子どもにとって意味ある単元名とするために
子どもにとってわかりやすく、
言葉で示すことができること
足りない部分は「約束」として単元名とセットで示す

② 話し合いの節

＜エピソード 1＞

『ちゃんと浮いたからうれしかった』 VS『でも、あれがふわふわ号？』

教5: 初めて「シンドバッド大会」をしてみたんだけど、どうだったかな？

S1: 今日「ふわふわまくら号」が浮いたからとてもうれしかったよ。それで、私は昨日までの3日間、ガムテープを貼って金槌で釘を打つばかりやっていたのね。

ひどかったけど、一生懸命やってきたからちゃんと浮いたんだと思うよ。

O3: 私はSさんと反対で、『これが「ふわふわまくら号？」』ってFさんに言われたのね。だから何か嫌な気持ちになったよ。

(W3) Fさん、どうしてそんなこと言ったの？

F1: だって毛糸が少ししかないし、全然「ふわふわまくら」に見えないから不思議だよ。

(N2) そうだよな。「ふわふわ」って言うのならもっと毛糸が全体についているはずだ。

S2: (感窮まったように立ち上がって、) でも、私たちのグループに毛糸とかもっている人が少なかったから... (涙を溜めながら) しょうがなかったの。

P1: 私の家にも毛糸が少ししかなかったし、...だから、しかたなかったんだよ。

K2: でも、3日間も釘打ちしていたのに、毛糸が少ないことに気付かないのは変だよ。分かっていたんじゃないの？

S3: だって、まず頑文にしないと壊れたり沈んだりするでしょう。だから、8人みんなで釘打ちをしていたんだよ。だから毛糸をつける暇もなかったの。

Q1: 私、Sさんの気持ち分かるよ。沈んだら大変！ふわふわまくら号、1番よく浮いていたもんね。...だから、毛糸を持ってきてあげたくなかったよ。

F2: 私もしょうがないと思えてきたよ。でも、それならみんなに「毛糸をもってきて」って頼めばいいんじゃないの？私も、明日持ってきてあげるからね！

(C: 私も....)

(あちこちでふわふわまくら号の人に約束します。)

W4: 毛糸でなくてもいいんじゃない。綿とか発泡スチロールとか、別の物でも使えるよ。

話し合い後の子どもの動き

- Fさんをはじめ多くの仲間が、さっそく家から毛糸を持って来る。
(学級集団の仲間を助けようとする動き)
- Sさんは粗大ゴミの収集場所からベッドのマットレスを持ち込み、船の上においてふわふわにしようと試みている。
(仲間に認めてもらおうと追究を深める動き)
- まず、沈まないように...もっと願いに近づけて...と、活動を工夫する。
(仲間の取り組みを手がかりに活動を見直す)

<エピソード 2>

「競争したい!」「でも…」 (他とのかかわりに目を向けさせるために)

「競争」への参加の実態(全8隻)

(大判紙に子供の実態を書いて掲示してある)

- ① グループ全員が競争したくて競争に参加する
→ 海王丸,海賊号
- ② 参加したくない人もいるが,全員で競争に参加する
→ 合体号,シーホーク号,ふわふわ号
- ③ グループの中の参加したい人だけで競争に参加する
→ いかり号
- ④ 参加したい人もいるが,全員参加しない
→ かざり号,ひよこ号

T1:いよいよ競争だね。C1さん(ひよこ号リーダー)元気がないね、どうしたの？

C1:本当は競争に出たかったけど、C2さんやC5さんが出たくないと言うから我慢した。

C2:競争したら、きっと船が壊れるよ。

C3(かざり号リーダー):そうだよ。私はどうしてもダメとは言わないけど、壊れたら責任もって直してほしい。

C4:僕たちのように出たい人だけで出れば…。

C6:C1さんがリーダーだから、その言うことを聞けばいいんじゃないの？

C5:命令だったら、楽しくない！つまらない。

C6:でも、みんなが好きなこと言っていたらメチャクチャになるよ。

C7:でも、命令ならやっぱり出たくない！

T3:「出たくないけど競争に出る人」の気持ちも聞きたいなあ。どうだい？

C8(ふわふわ号):初めはC9さん一人が競争に出たいと言ったのね。でもあんなに大きい船を一人でこぐのは無理だし… 相談したら、C9さんのために、みんなで一緒に出ようということになったの。

T4:同じ競争でも、随分参加の仕方が違いますね。もう一度相談することにしよう。

その後の動き

- ・ 各グループの競争への対応の仕方を聞き合い、もう一度グループ毎の相談の時間を設けることによって、一人一人の気持ちを確認合いながら、新たな決断を模索していった。
- ・ ちなみにひよこ号のC5さんはC1さんと競争に参加したが、C2さんは応援にまわった。

<エピソード 3>

『かわいそうだから待ってあげよう』 VS『約束だから待てない』

【問題状況】

「次は乗って楽しむだけでなく競争しよう」という目当てで活動をしてきた子どもたちがいよいよ競争をしようという時、海賊号船長のW君が目には涙を溜めていた。

聞くと、前日の船遊びで船体の一部が壊れて、競争の前に修理の時間がほしいというのである

教14:いよいよ競争だね。W君、どうしたの？

W5:(涙声で)昨日遊んだ時船が少し壊れたのね。だから、船を直すのに競争を30分待ってほしいんだけど…。

(C:駄目駄目30分も待てない。出なければいい。でも確かに壊れていたよ。……待ってあげよう。)

N6:今日競争する約束だよ。ぼくもだけど、出る人は早くやりたいから、そんなの待てないよ!!

F5:(急に立ち上がり、強い口調で)そしたら、N君、N君の船が壊れてみんなが早く競争したいって言ったらどんな気持ちになるんですか？

N7: (間10秒) そしたら・・・壊れていても、めちゃくちゃのまま出る。約束だもん。 F6: でも、私ならやっぱりいやな気持ちになるよ。だから、待ってあげてもいいんじゃないの？ K6: だけど、自分たちが悪いんじゃないの！ ぼくらのように気を付けて遊べばよかったんだよ。 教15: K君の言うことも分かるけど、海賊号は、今、もう壊れてしまっているんだけど・・・どう？ K7: そしたら・・・(間15秒) 10分なら待っててあげてもいい。 (C: いやだよ、早くやりたい！(多い) 待っててあげよう・・・。(少ない)) (C: 騒がしくなってくる)	教16: 待って！前に待ってあげたことがなかったかい？(間10秒) ほら、ひよこと遊んだ時・・・。 X1: あっ！ぼくらのお城がすごい風で壊れたときだ。(教: で、どうだった？) あの時みんな1日待ってくれたおかげで みんなと一緒に遊べて、ぼくもうれしかったし、ぼくのマリオ(ひよこの名前)もとってもうれしそうだったよ。 (教: だから？) だから、今度は10分ぐらい 待っててあげたい。 U3: ぼくもX君チームだったのね。ぼくは海賊号がちゃんと直るまで 待っててあげる。 N8: じゃあ、もし競争できなくなったら、U君責任 としてね。
U4: もしできなかったら、(間6秒) 今度の時間にやればいいんじゃない？ みんなも、そう思うでしょ。(数人がうなずく。) J2: そんなのいやだよ。だって待ってるなんて退屈だよ。早くやりたいなあ・・・。 S4: J君、待っててあげようよ。わたしはその間に漕ぐ練習をしたらいと思うよ。 (C: そうか練習すればいいんだ。ぼくらは作戦をたてよう。) (C: だんだんうなずく子どもが増える。) F7: そしたら、みんなで海賊号を手伝ってあげたい んじゃない？ その方が早く競争できるよ。 教17: それでは、30分待っててあげていいですか。 (C: いいよ) その間にすることをグループ毎に相談して活動に入りましょう。	【話し合い後の活動の変化】 - 海賊号の3人は、これまでにない真剣さで船の修理を24分で終えた。 - 他の7隻の船のうち、6隻はそれぞれ作戦をたてたり漕ぐ練習をして、1隻は(Fグループ)は、始めの3分だけ修理を手伝い、W君の「ありがとう、ぼくらでやれるから練習にいてもいいよ」という心遣いをもった後は、さっそく漕ぐ練習をしていた。 - 話し合いの後は、船を補強する動きや壊さないように考えながら遊ぶ動きが見られた。そして、2・3回目の競争では「待ってほしい」というグループは見られなかった。



単元構想していくと わくわくして子供を見ることができる

単元構想をしっかりしていこう

年間1つは、自分の得意なことで
しっかりと単元構想し、大きな単元の授業に挑戦しよう

どうやったら、子供も教師も楽しいか
楽しんで授業を創っていこう